

感染症発生動向調査委員会報告 10月

《今月のトピックス》

- 風しんの流行が継続しています。
- RS ウイルス感染症の報告数が多い状況が続いています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<細菌性赤痢>

1件のShigella sonneiの報告がありました。渡航先(インド)での感染が推定されています。

<腸管出血性大腸菌感染症>

8件(O157 VT1VT2 4件、O157 H7VT1VT2 1件、O157 H7VT2 1件、O111 VT1VT2 2件)の報告がありました。O111の2例はきょうだい例でした。感染原因はいずれも調査中です。腸管出血性大腸菌感染症の感染予防法は手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<デング熱>

2件の報告がありました。どちらも渡航先(1件はフィリピン、もう1件はインド)での感染が推定されています。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は国内での感染が推定されているものの感染経路は不明、もう1件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。

<ウイルス性肝炎>

1件のB型肝炎の報告がありました。横浜市内での異性間性的接触による感染が推定されています。

<急性脳炎>

1件(幼児)の報告がありました。病原体はHSV(型別不明)でした。

<クロイツフェルト・ヤコブ病>

1件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<ジアルジア症>

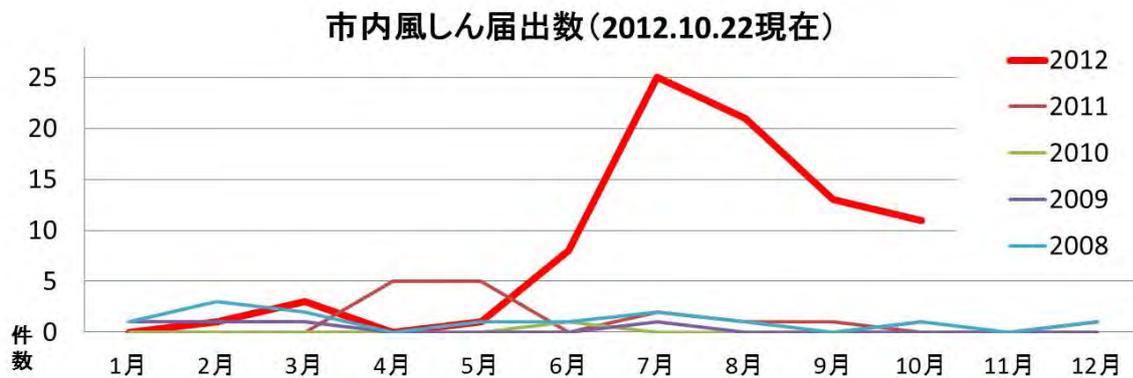
1件の報告がありました。カザフスタンでの経口感染が推定されています。

<バンコマイシン耐性腸球菌感染症>

胆管炎患者の胆汁から検出された、1件の vanC 型の報告がありました。

<風しん>

11件の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となっておりますが、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも10月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています*。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。



※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握疾患

平成24年9月24日から平成24年10月21日まで(平成24年第39週から平成24年第42週まで。ただし、性感染症については平成24年9月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

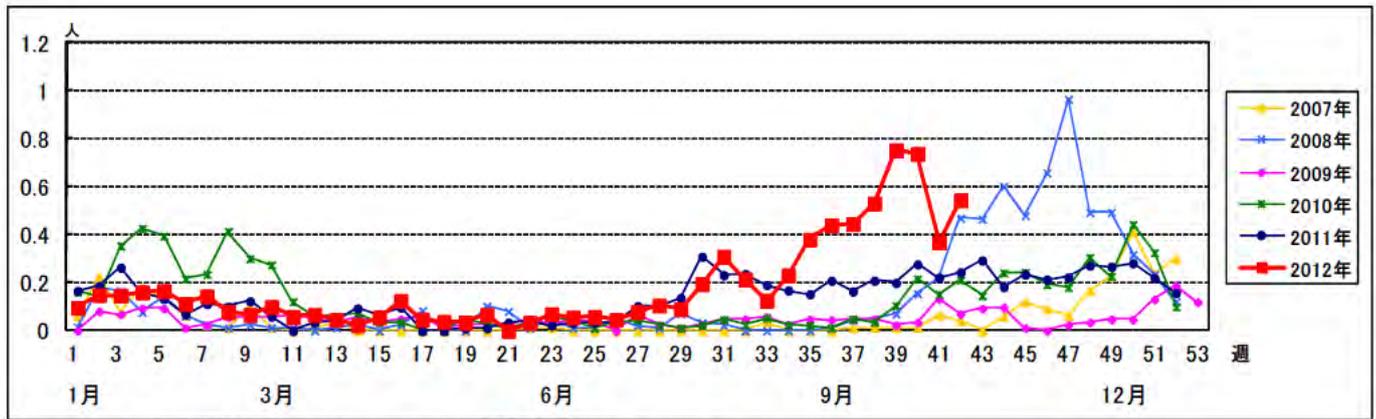
第39週	9月24日～30日
第40週	10月1日～7日
第41週	10月8日～14日
第42週	10月15日～21日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。(10月1日より基幹(病院)定点が4か所となりました。)なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<RSウイルス感染症>

今年は30週頃から全国的に流行がみられています。市内でも7月ごろから増加し、39週は定点あたり0.75となりましたが、翌40週から減少に転じ、42週では0.54となりました。ただ、全国的には流行が継続しており、引き続き注意が必要です。都道府県別の報告をみると、第42週では、福井県3.09、山形県2.83、新潟県2.82、宮崎県2.58、秋田県2.46、佐賀県2.17となっています。関東周辺では東京都1.15、千葉県0.74、神奈川県0.52となっています。

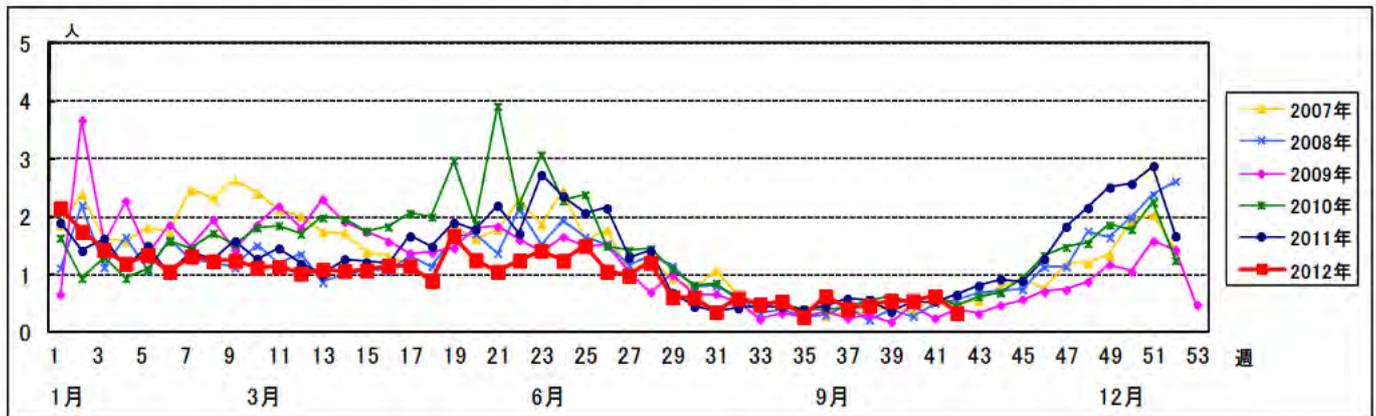


◆IDWR第40週:注目すべき感染症「RSウイルス」

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idwr/kanja/idwr2012/idwr2012-40.pdf>

<水痘>

第42週は市全体で定点あたり0.34と、大きな流行は見られませんが、38週0.47、39週0.55、40週0.55、41週0.63と報告が増加傾向にあり、例年これからの時期に流行がみられるので注意が必要です。



<性感染症>

9月は、性器クラミジア感染症は男性が28件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が4件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>

近年マイコプラズマ肺炎は全国的に流行していますが、今年は春ごろから徐々に増加し続け、第35週以降は定点あたり1.00を超えています。さらに、第39週1.18、第40週1.26、第41週1.08と報告数の多い状況は続いています。横浜市でも第39週2.00、第40週2.33、第41週1.67と、報告が多い状態が継続しています。無菌性髄膜炎が第40週に1件(幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

9月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件(鼻咽頭ぬぐい液47件、ふん便2件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点13件(鼻咽頭ぬぐい液4件、ふん便2件、髄液5件、血清2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎29人、RSウイルス感染症9人、手足口病6人、胃腸炎2人、咽頭結膜熱、発疹症、流行性耳下腺炎各1人、眼科定点は急性結膜炎1人、基幹定点はけいれん3人、インフルエンザ、脳炎脳症、無菌性髄膜炎各1人でした。

11月9日現在、小児科定点の手足口病患者4人と気管支炎1人からエンテロウイルス71型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスB型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のRSウイルス感染症患者9人と気道炎5人からRSウイルス、気道炎患者6人からパラインフルエンザ、気道炎患者2人からアデノウイルス、気道炎患者1人からコクサッキーウイルスA(以下CA)2型、手足口病患者1人からCA6型、咽頭結膜熱患者1人からCA8型、発疹患者1人からB19ウイルス、基幹定点のけいれん患者1人からCA9型、脳炎脳症患者1人からアデノウイルス、無菌性髄膜炎遺伝子患者1人からエコーウイルス6型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

10月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは11件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2、O111:H-,VT1&2)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H-,LT+)、サルモネラ(*S.Enteritidis*)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から6件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(10月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	10月			2012年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	9	11	1	141	94
菌種名						
赤痢菌		1			3	2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			8		4	47
腸管毒素原性大腸菌		1			3	
チフス菌					1	1
パラチフスA菌					2	
サルモネラ			1		20	4
カンピロバクター				1		10
コレラ菌						2
NAGビブリオ						1
不検出	0	7	2	0	106	27

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	10月			2012年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	6	3	7	76	20	94
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			10		
	T2			2		
	T6			9		
	T4	1		4		
	T12			10		
	T25			1		
	T28	1		4		
	T B3264	2		6		
B群溶血性レンサ球菌		2	5		2	22
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					7	26
バンコマイシン耐性腸球菌					1	3
<i>Legionella pneumophila</i>			1			2
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌		1		3	1	
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌			1			5
<i>Mycobacterium avium</i>						1
緑膿菌						1
不検出	2	0	0	20	8	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】